

最近、西多摩でのツキノワグマの目撃情報が増えています。しかし、不思議なことに市内では、目立った目撃情報はありませぬ。市内にも爪痕やフンなどの痕跡が数多く見られることから、間違いなく生息しています。そのため、都では、毎年7月、8月に市内の山林にも複数台のセンサーカメラを設置してツキノワグマの生息調査を行っています。

私が設置したセンサーカメラにも毎年のようにツキノワグマの姿が写ります。今年も、山林内に設置したセンサーカメラにクマの姿が写りました。このクマは、成獣というには少し小型で、その行動にも子どもっぽさが見られます。カメラを見つけて興味を持ったのか、背伸びをして鼻を突き上げカメラの臭いをかいでいる鼻先だけが写っていました。また、別の時には、カメラの画角ギリギリの所を走り抜けチラッと後姿を見せたりします。どうも、いたずら好きのクマのようで、カメラにチラッと写ることを楽しんで、こちらをもてあそんでいるような気がします。ツキノワグマは、特定のテリトリーを持たずに採食のため行動範囲を広くとるといわれています。この場



画角ギリギリを走り抜けるクマの姿

所では、3月14日、5月7日に撮影されました。複数のフンなども確認されたことから、1か月半以上の間、この周辺でウロウロしていたといえます。このことから、この森には、ツキノワグマがある程度の期間を採食して過ごせる「豊かさ」があることが分かります。この豊かさがあるため、ツキノワグマは人里で人に遭遇することなく森の中で暮らしていけると想像しています。では、どのような森が「豊か」といえるのか？ まだまだ分からないことがたくさんあります。単純に生物多様性という言葉では、表現できない森の姿があります。ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカなどの大型動物が自由に行動できる森の姿は、林床が藪で多様な草木が繁茂する所とは違うように思えてなりません。(杉野)